

## 内川の今昔概況等

内川とは如何なるものかあまり関心のない方が多いと思いますので内川について戦前戦後から現在に至るまでの自分の記憶と初代の記録等参考にして記することに致します。

明治・大正・昭和20年までの内川はヘドロではなくて底は土質の泥でした、大正から昭和にかけては聞くところによりますと泳ぐことも不可能ではなくて当時の中学生（旧制）が住吉橋から京橋まで教科書を頭にくくりつけて競泳したとのことです。

自分のことになり恐縮ですが家は現在の築地の川の分岐点のところで川沿にあり川と家の裏側はかなりの道(?)で充分通れる程でした、各家庭の裏側の川沿は花を植えたり野菜物を作ったりしてました。当時は製材所があり筏がつながれてました。小舟もあちこちと係留っされてありました。

自分が昭和5,6年前後から幼稚園、小学1～6年の頃迄は夏になると近所の子供たちと鮒やめだかを筏や小舟の上から掬うのが楽しみでした。鯉やどじょうもいました。蟹も色んな種類がおり爪の赤い猩猩蟹を捕っては得意になった

りし、川べりで針うなぎ（後に聞いたのですがうなぎの稚魚との事）が居り母に絹でたこを作ってもらって掬いに行ったものです。又川の上にはトンボややんま、秋口にはたくさんの赤とんぼが飛び交い賑やかでした。

子供達は川べりで遊ぶのが楽しみだったのです。時々遊ぶのが夢中になり川へ落ち込んだ子供も居ましたが水がきれいであったので事なきを得ました。子供ばかりでなくて当事大人の方は京橋から和歌浦湾まで、または紀ノ川の川口まで友人同士やアベックでボートを漕ぎ、暗くなるとボートのうしろへ提灯をつけたり中には屋形船でたくさんの提灯を飾って三味線を弾き小太鼓うを叩きながら楽しんで居り良い風情でした。当事は住吉橋と京橋の付近で貸しボート屋があり、季節になれば住吉橋でかきぶねが用意されて食べに行く人もたくさん居ました。それほど川としての水はきれいで悪臭など全く無かったのです。

和歌浦湾へは荷物を積んだ貨物船が入り小さい平積みの舟(子供の頃は「さぶた」と言っていた記憶があります)に積み替えて内川へ入り川の沿線の業者へ荷下ししたりする荷物

の交流もありました。

戦時中は和歌山の特産とも言うべき奈船の排水も少なく  
てより以上にきれいになってた様子でした。自分は昭和20  
年7月9日の和歌山空襲の日はたまたま家に居り(現信州大  
学工学部在学学徒動員休暇帰省中)空襲が激しく焼夷弾の落  
下も激しくなってきたので父を自転車の後ろへ乗せて逃げ  
る途中全く奇跡的にパンクした瞬間に目の前で焼夷弾が破  
裂して服へも火がついたのでしたが幸い傍に用水桶があり  
水をかぶり焼けずに助かったのです。自転車はパンクして  
乗れなくなり父と必死で走り新町橋を渡り橋の下へと逃げ  
込みました。とても体中が熱くてたまらず川の中へと入った  
のですが暫くすると築地の方から物凄い音と共に川面を火  
の塊が走ってきたから急いであがったのです。明るる朝に  
なり気がつきましたが服も靴も悪臭は全くありませんでし  
た。今になって思えばそれ程川の水は汚れてなくてきれい  
であったものと思われます。ところが終戦後に家庭から出る  
ゴミを橋の上とか家庭の裏側の川へ投げ込んだりするばか  
りか汚水も垂れ流しの状態となり下水設備も後進都市の関

係も有り筏の傷んだ木の皮の沈殿と共にヘドロが溜まる様になってメタンガスが発生し始めたのです。水の流れがゴミと汚水と混り和歌浦湾へと流れる様になり和歌浦ののりの業者さんがのりを作れなくなるとのことで小雑賀で業者さん達が昭和24年ごろに仮堰を造ったので全く水は流れなくなりヘドロは溜まるばかりで言わばドブ池の状態になったのでした。

初代会長が初めて船上視察を行った48年8月6日に子豚の死骸とか全くのゴミの固まりが流れてきたとのこと。又メタンガスが激しくて同船した方が大橋の近くで船上で倒れたとのこと。鍛冶橋の近く猟に行く方が川端で飼っていた猟犬2匹が2年も経たぬのにメタンガスで倒れてしまったとのこと。更には家の裏側川に面したガスメーターが錆びついて使用不能、内川に関心を持つ和歌山商業の学生さんが金魚を川の水を入れたバケツで8分で死んでしまったとの話も聞きました。・・・先の空襲の折この様な状態であったなら自分として身体が熱くてたまらなくても果たして川の中へ入ったかどうか？・・・川沿いに住む多くの市民の方

が昼夜を問わずメタンガスの発生する悪臭に悩まされて居たのです。

現在は52年頃にポンプ場（水門）が出来て海水を流し込んでいますがあくまでも逆流で海水です。川底のヘドロは10年近く前から浚渫されてBODも薄くなり、長年懸案だった仮堰はようやく60数年ぶりに撤去されましたが先にも述べた如くあくまでも海水です。川としての本体の水ではありません。川としては真水が本体です。

話題は変わりますが『内川をきれいにする会』の初期の目的は紀ノ川から和歌浦湾へと通じ先ほども記しました通りトンボが飛び交い川魚が棲息して市民が楽しめる憩いの場として、又市外から見えられる方々に『内川はきれいだ。楽しめる場だ』と感じて頂ける様にしたいのです。

長文になりまだ記することはたくさんありますが以上で概況を記させて頂きます。

『追1』和田川との連繋近くのポンプ場（水門）は技術的には難点も有るでしょうが和歌浦湾まで連結することが且つての正規の川の流れとして内川を蘇らすことになると思

いますので何とか取り除き出来ないものかと考えておる現状です。

『追2』市堀川『いちほりがわ』の沿線では且つて市場が開かれてあったので『いちほりがわ』の名がついたとのことです。・ ・ しほりかわ ・ ・ ではありません。

『追3』兎に角近い将来和歌山市の観光の一助として地域再生に役立てばと念願しております。

---

本年『内川をきれいにする会』は初代原峰三郎創設50年になります・ ・ 和歌山に内川あり・ ・ これが自分の現在の心情です。・ ・ 和歌山の内川へ行こう・ ・ と誰もが感じる内川にしたいものですがまだまだ川としての真水ではありません。仮堰は撤去されましたがポンプ場（水門）が有る限りいつまでも海水で和歌浦湾までは行けません。水門を取り外し川の本流にして塩分の無い川魚の棲みトンボの飛び交う内川を取り戻し、紀ノ川から和歌浦湾までボートや小舟で行ける真の内川の再現を期するものです。